

もっと現場を知る！職員短期派遣研修報告

派遣先団体名：バリアフリー・シネマ&ライフ・ネットワーク

隠岐支庁水産局 新宮 研一

1 研修期間 平成23年7月31日～平成23年10月10日のうちの10日間

2 はじめに

目の見えない人にも耳の聞こえない人にも不朽の名作映画を楽しんでもらいたい、高齢の方にもその名作の真髓をできるだけ分かっていただくため、映画の布石の見落としもなくすような解説をするという工夫を凝らした映画を見てもらい、その映画を話題として高齢の方々の交流も深めていきたい、というこのNPO団体のバリアフリー映画作成の方針に魅かれて、この研修への参加を決意しました。

3 研修内容等

7月31日（日）より、名画「カサブランカ」の声優募集オーディションの準備から研修が始まりました。高校生数名を含む20人以上の応募があり、各々声優をめざしての迫真の演技に驚くとともに皆さんの熱意に圧倒されました。震災のため、福島県から島根に避難している方の参加もありました。



公開オーディション

主に8月・9月の土曜日・日曜日に声優演技の練習があり、会場準備などの補助的な業務が主たる研修内容でしたが、台本の言い回しのチェックや字幕作成などもさせていただきながら、割り当てられた声優演技の練習もしました。

研修日数は、10日以内とされていますが、実質的には自主参加として皆さんと練習をしなければ（してもですが）、演技はなかなかできませんでした。



パソコンでの練習

4 研修の感想等

やる気を持って集まった方々の熱意とそれを先導する中嶋理事長さんの巧みな技術で、皆が一丸となって一つの方向に進んでいく大きな力が感じられるような気がしました。

目的や目指すところをきっちり
と皆に理解してもらい、何とかうまくなりたいという皆の気持ちを鼓舞させていく運営手法を見ることができたことは、これからの自分に大きな研修成果だったように思われます。仲間意識を形成させ、うまくできたところは認めて褒めまくと手法も参考になったと思います。



また、人付き合いが非常に苦手である自分が、全く知らない方々と一緒になってやっていくことによる訓練、今までにやったことがないことに取り組むことから得る興味の広がり、発声の仕方、演技の難しさ、吹替え作業や字幕作業の大変さ、映画での日本語訳の難しさ、映画から学んだいくつかの英文など、数多くの本当に様々なことを学ぶことができました。日本語は、同じことを表現するのに英語より1.5倍もかかるとのことで、できるだけ元の台詞の省略をしないような日本語訳が考えられていたため、画面の時間内に入れるために皆さんと一緒に苦労しながらの練習でした。残念ながら、自分の音声演技の出来はとても満足のできるものではなく、自分のところを見るとあまりに下手で情けなくなりました。何とか最小限の迷惑にて終わることを祈るばかりでした。

ただ、これから将来のある高校生のうまい演技にはとても感心するとともに、研修の最終日には、もう、この一緒に頑張った方々とはなかなか会えなくなるのかと思うと少し寂しい感覚にとらわれました。

耳や目に障害がある方も高齢の方をも含め、誰もがバリアフリー映画によって昔の名作を楽しみ、それを話題に各々の交流を深めて、より心豊かな社会を目指すという大きな目的に向かって、その中のほんの微力にでも協力できたのであれば、とても意義深く思います。楽しみながら、そして、苦しみながらの努力も含め、理事長さんの運営方針から学べたことも併せて、この研修を受けられたことを感謝しております。